

「日光の社寺」は 世界遺産登録から 20周年を迎えます

くわしくは 文化財課 ☎25-3200

1999年(平成11年)12月2日、北アフリカのモロッコ王国の古都マラケシュで開催された第23回世界遺産委員会で「日光の社寺」の世界遺産登録が決定され、同月4日に世界遺産一覧表への記載が行われました。本年は登録から20年の記念すべき年です。この節目に改めて世界遺産としての日光の社寺の意義と未来に伝えるための取り組みを紹介します。

「日光の社寺」のあらまし

「日光の社寺」は、一荒山神社・東照宮・輪王寺の江戸時代から残された多くの建造物群と、鎌倉時代にさかのぼるものを含む杉木立に囲まれた境内地から成ります。弥生祭や千人行列、強飯式ごうはんしきなど社寺に伝わるさまざまな祭礼行事も世界遺産に深く関わるものとして評価されています。中心となるのは、東照宮陽明門に代表される文化財建造物で、国宝9件、重要文化財94件の計103件に及びます。そして、約50ヘクタールの境内地は「日光山内」として国の史跡に指定されています。

なぜ、世界遺産なのか

人類全体の遺産を保護・保存するため、国際的な協力をするを目的に1972年(昭和47年)にユネス

表：世界遺産条約加盟時の世界遺産暫定一覧表

	遺産名	種別	登録	主題
1	白神山地	自然	1993	生態系
2	屋久島	自然	1993	生態系/自然景観
3	法隆寺地域の仏教建造物	文化	1993	宗教建築
4	姫路城	文化	1993	城郭
5	古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)	文化	1994	歴史都市
6	白川郷・五箇山の合掌造り集落	文化	1995	農村
7	厳島神社	文化	1996	宗教建築
8	古都奈良の文化財	文化	1998	歴史都市
9	日光の社寺	文化	1999	宗教建築
10	琉球王国のグスク及び関連遺産群	文化	2000	城郭
11	古都鎌倉の寺院・神社ほか	文化		歴史都市
12	彦根城	文化		城郭

コ総会で「世界遺産条約」が採択され、それに基づいた世界遺産一覧表に記載された遺跡や景観ならびに自然が「世界遺産」です。本年7月時点で193の国と地域がこの条約に加盟しています。

日本の加盟は1992年(平成4年)で、この時に、今後の世界遺産の候補を発表しました。これは、「世界遺産は事前にその候補を示さなければ審議されない」という決まりが

あるため、「日光の社寺」はこの日本最初の暫定一覧表に掲載されました(表)。

候補には、それぞれ明確なテーマがあり、それは世界で唯一のものでなければなりません。日光は、法隆寺(寺院)、厳島神社(神社)と並び、日本を代表する宗教建築物であり、神仏習合の姿をとどめていることから候補に挙げられました。

神仏習合の歴史を遺す日光

「神仏習合」は神仏混淆とも言い、日本古来の神道と6世紀に伝わったインドに起源をもつ仏教を区別せず、一体のものとして信仰することで、江戸時代までの日本ではごく普通のことでした。その姿が大きく変わったのは、明治新政府が1868年(慶応4年)に発した神仏分離令によります。新政府は江戸幕府に代わる天皇中心の国家を築くため神道を国教とし、仏教と分離する政策を進めます。これは同時に仏教を退ける



神仏習合の名残を今に伝える東照宮表参道の石鳥居と五重塔



二荒山神社(左)とかつての三仏堂(右)「日光山志」より

廃仏毀釈の運動につながり、多くの寺院と仏像の破壊が起こります。日光での神仏分離令は1871年明治4年)に施行されましたが、社寺関係者による政府への強い働きかけにより、二荒山神社の隣に建てていた三仏堂を中心に輪王寺の一部施設が移転した程度で済みました。また、この間、戊辰戦争(1868年~1869年)の戦火が日光に及ばぬよう旧幕府軍の大鳥圭介らが六方沢越えで栗山への撤退を決断したのは有名な話です。

保存修理のはじまり

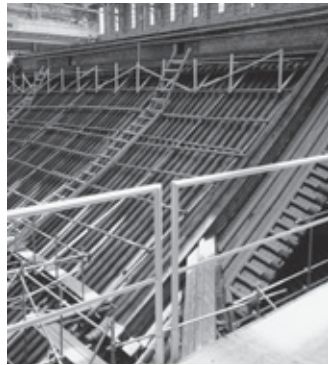
神仏分離令による大きな破壊は免れたものの、社寺の建物や環境は荒れていきます。これは、初代将軍家康(東照宮)や二代将軍家光(大猷院)の墓所としての輝きを保つために定期的に行われてきた修理が、幕府の消滅によって途絶えたためです。明治新政府にはこれを維持していく財力はまだありませんでした。

この現状を救うため、県内の人々が募金活動を始めます。日光山内の社殿と名勝を永世に保存することを目的に1879年(明治12年)、「保晃会」が現鹿沼市出身の安生順四郎を発起人として創設されました。

会員はやがて全国に広がっていき、集めた資金を基に本格的な建造物修理を行うため1899年(明治32年)、社寺大修繕事務所が設置されました。これは現在の「公益財団法人 日光社寺文化財保存会」に引き継がれ、修理が続けられています。現在「平成の大修理」と呼ばれる、東照宮陽明門、輪王寺本堂(二仏堂)、二荒山神社本殿・拜殿といった社寺の主要建造物の修理が終わろうとしています。これは1950年(昭和25年)に始まった国の長期にわたる修理事業の一環であり、今後も継続的に続けられていきます。

世界遺産を守る

このように、日光の社寺は多くの



修復作業中の輪王寺三仏堂
写真提供：公益財団法人日光社寺文化財保存会

人々の努力により、現在までその姿を保ち続けることができました。その歴史をふり返れば、世界遺産に登録されたことは当然のことかもしれません。

しかし、世界遺産は登録が終点ではありません。登録後も定期的に保全状況をユネスコ本部に報告する必要がある、状態が悪ければ登録を取り消されることもあります。

始めに述べたように世界遺産としての日光の社寺の評価は、建造物群だけでなく、それを取りまく境内地の自然も含まれます。市はその環境の変化を計測するモニタリング作業を20年間続けており、2008年(平成20年)からは「日光ユネスコ協会」の協力を得て、大気汚染の原因物質の調査を年3回実施しています。観光客が増加する夏休み中の調査には市内の高校生も参加し、世界遺産に身近に接することで、「世界の宝」を未来に伝えていくことの大切さへの理解を深めてもらっています。



市内の高校生たちによる大気汚染原因物質調査

第6回 世界遺産サミット

11月21日(木)・22日(金)に登録20周年を記念して世界遺産サミットが日光市で開催されます。

2日目のサミット会議において、日光ユネスコ協会のモニタリング調査に参加した日光明峰高校の生徒たちによる事例発表が予定されています。

また、関連行事として次のとおり写真展・絵画展を行います。

写真展「写真で見る「日光の社寺」の保存修理」

- ◎市役所本庁舎1階ロビー
11月7日(木)まで
- ◎日光地域文化祭(日光総合会館)
11月9日(土)・10日(日)
- ◎日光そばまつり会場
11月15日(金)~17日(日)
- ◎日光街道ニコニコ本陣
11月18日(月)~24日(日)

日光ユネスコ協会絵画・写真展「絵で伝えよう私の町の宝物」

- ◎輪王寺「紫雲閣」
11月16日(土)~19日(火)
- ◎日光街道ニコニコ本陣
11月20日(水)~24日(日)